

令和5年度 けが・病気の状況

大阪府立茨木支援学校 保健室

1. 保健室の利用状況

今年度の4月～12月の保健室利用件数は637件（表1）であった。昨年度までは1月までの件数を挙げたが、学校保健委員会に向けての準備の都合上、今年度より12月までの件数を挙げている。

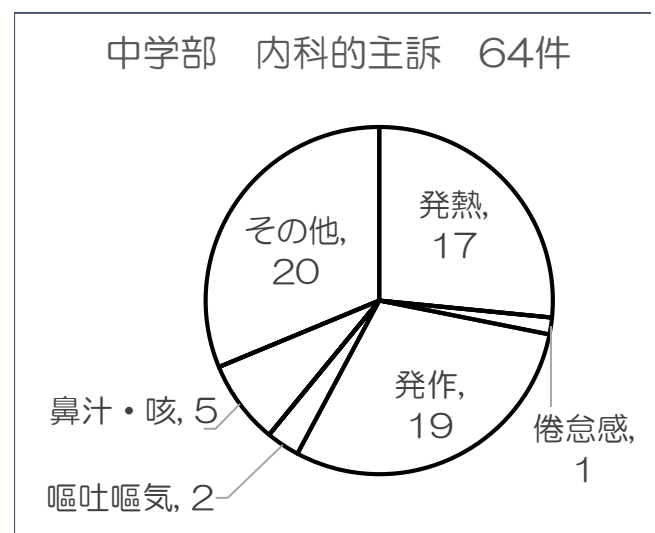
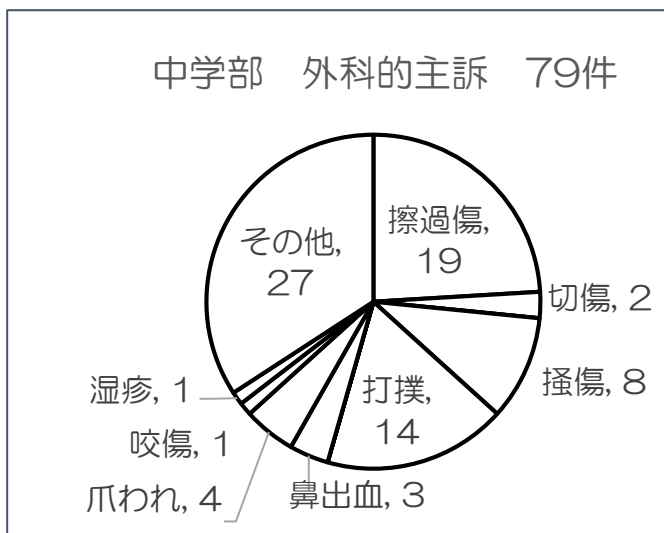
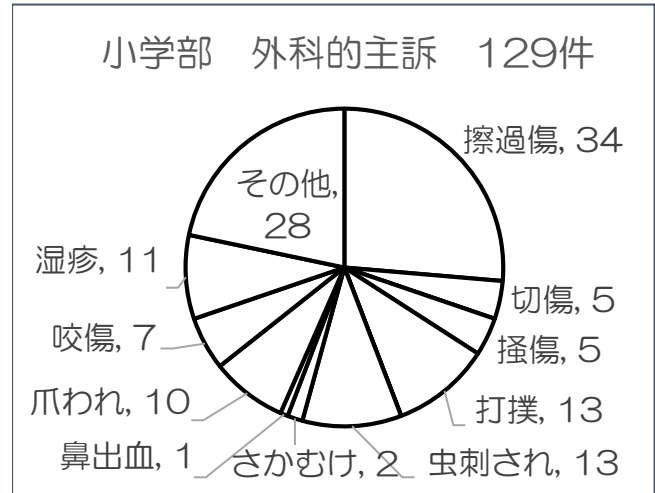
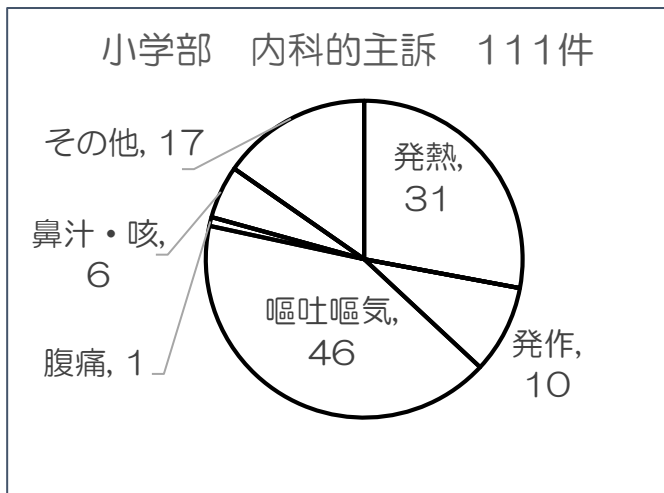
昨年度と比べて外科的主訴件数の減少は、集計日数が減っていることが大きな要因であると考えられる。

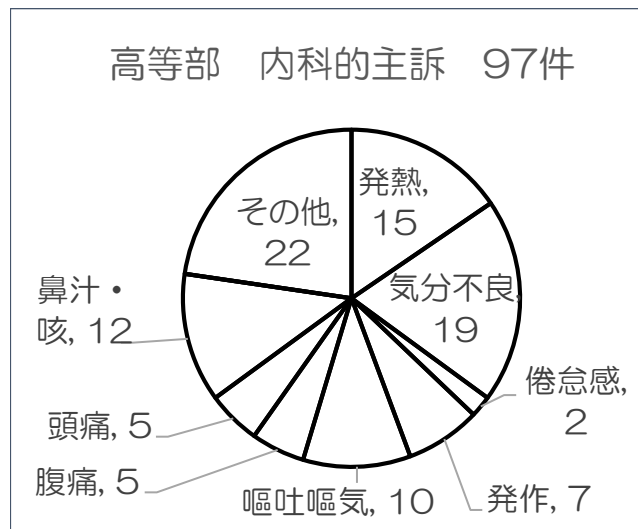
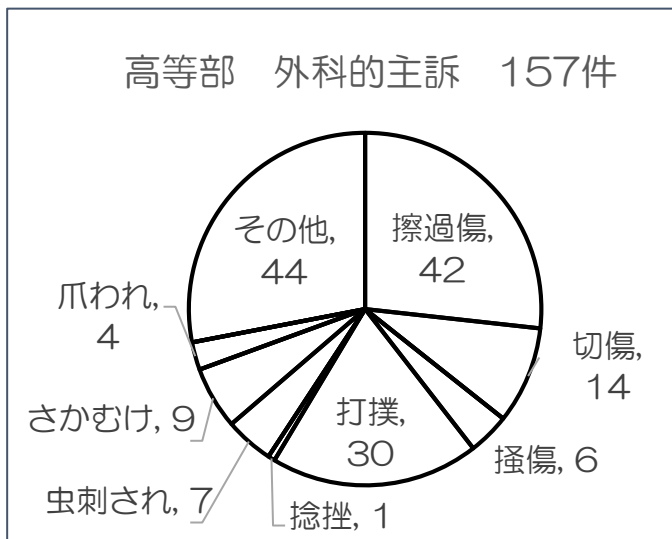
一方、内科的主訴件数は昨年度と比べてほぼ同数であり、ベッド利用数は増えている。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、濃厚接触者の出席停止がなくなったり、軽微な風邪症状であれば登校するケースが増えたりして、登校後に発症したり、症状が悪化したりという状況が増えていることが背景にあると考えられる。

また、今年度はインフルエンザをはじめとした様々な感染症が流行したことも要因の一つと考える。9月にインフルエンザが流行した時期より朝と昼に健康観察（検温）を開始し、現在も継続して行っている。検温をすることで不調者を早期発見し、対応に役立てることができており、児童生徒の体調悪化の予防とともに校内での感染拡大予防の一環を担っていると考える。

表1 保健室利用件数

	R5年度	R4年度	R3年度
外科的主訴	365	586	590
内科的主訴	272	278	441
総利用数	637	864	950
ベッド利用件数	71	62	60





(1) 外科的主訴について

外科的主訴として、全学部で擦過傷、打撲、搔傷が多かった。その他の内容についてはかさぶたが剥がれたことによる出血、発疹、口腔内出血、眼の充血など様々であったが、軽微なものがほとんどであった。また運動中の擦過傷、打撲が多く、病院受診が必要なケースもあった。

高等部生活課程ではサッカーやバスケットボール等の球技や持久走等に取り組んでいる。そのため、体育の授業中に突き指や打撲等が発生している。中には、急激な運動量の増加によって痛み等の症状を発症したり、違和感や軽い痛みを放置して活動していたために大きな怪我につながるケースがあったため、1月の保健だよりにてケガの防止について掲載し、啓発を行った。

(2) 内科的主訴について

内科的主訴として、全学部で発熱、発作、嘔吐・嘔気が多かった。その他の内容については、SpO2値低下、喘鳴、心拍高め、寒気、原因不明の発疹などがあつた。保健室での対応や休養後には、そのまま授業に戻って過ごすことができる場合や、早退して自宅療養や病院受診する場合もあった。また、発作や呼吸状態の悪化により、緊急性が高いと判断した場合には保護者や管理職との相談のもと、救急搬送したケースもあった。緊急対応について、医師の指示がある場合は、指示に従い対応している。

(3) 緊急時に使用する薬の使用について

今年度、校内で緊急時に使用した薬（坐薬）は2件であった。両ケースとも意見書に基づいた緊急対応チャートを活用してスムーズに対応することができた。使用后、保護者迎えにて帰宅し、自宅療養したケースと医師の指示に基づき救急搬送したケースがあつた。

2. 病院受診状況（学校でのけがや不調が原因のもの）

学校でのけがや不調が原因で病院受診した件数は、12月末時点で8件（昨年度11件）あつた。外科的な理由で、病院受診したケースは5件で、けがの内容としては、骨折、打撲等であつた。内1件は救急車で病院受診、内1件はタクシーで病院受診、内3件は帰宅後に病院受診した。内科的理由で病院受診したケースは3件で、呼吸状態の悪化、てんかん、誤食があり、内3件とも救急車で病院搬送した。

病院受診した場合は関係職員で振り返り、教員間での情報共有、環境整備や体制の見直し、児童生徒への指導、保護者や主治医との対応の再確認等を行い、再発防止や緊急時の体制構築に努めている。

3. 病気による欠席の状況

月別一日平均欠席者数は(図1)(図2)、感染症による月別出席停止者数は(図3)の通りである。(発熱等で病院受診後に出席停止となる感染症と診断された者の数は、発熱等風邪症状による欠席者数(図2)には含めず)

発熱等風邪症状による欠席者は、6月に小学部で増加しているが、同一の児童が継続して欠席していたためである。

不調による欠席者は、腹部症状(下痢・嘔吐)、頭痛、発作、その他の不調、不調による病院受診、不調による入院、などであった。その中でも「その他の不調」が最も多く、不調の内容については、休養や精神面での不調、生活リズムの乱れ等、多岐にわたるため、その都度、担任と確認し、実態把握を行ったうえで、必要に応じて対応策を講じている。

感染症による出席停止者数(図3)は58名で、インフルエンザ、新型コロナウイルス、溶連菌感染症、咽頭結膜熱の報告があった。

大阪府内でインフルエンザA型の感染者数が増加した9月~12月に、本校でも同様にインフルエンザA型の感染者が増加した。特に高等部生活課程においてインフルエンザA型の感染者が増加したため、大阪府教育庁支援教育課と相談のうえ、学級閉鎖を行った。大阪府内の感染症流行状況を随時確認(毎週木曜日更新)し、保健だよりにて感染症対策と併せて情報提供を行った。また、発生状況に応じた健康観察(朝、昼の検温など)を実施し校内での感染症拡大防止に役立てた。

図1 不調による欠席者数の月別一日平均

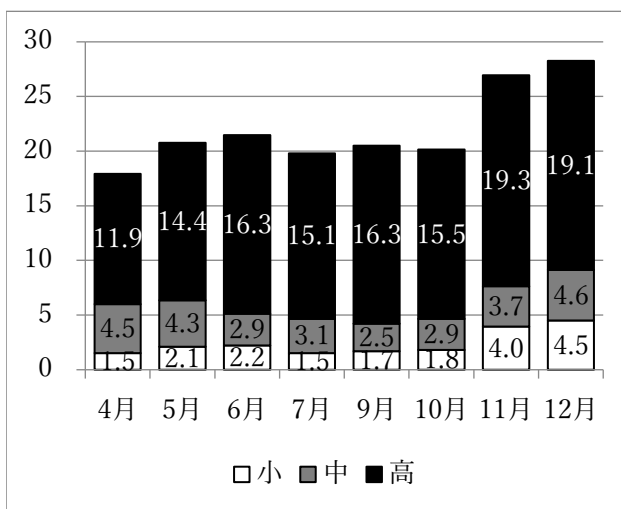


図2 発熱等風邪症状による欠席者数の月別一日平均

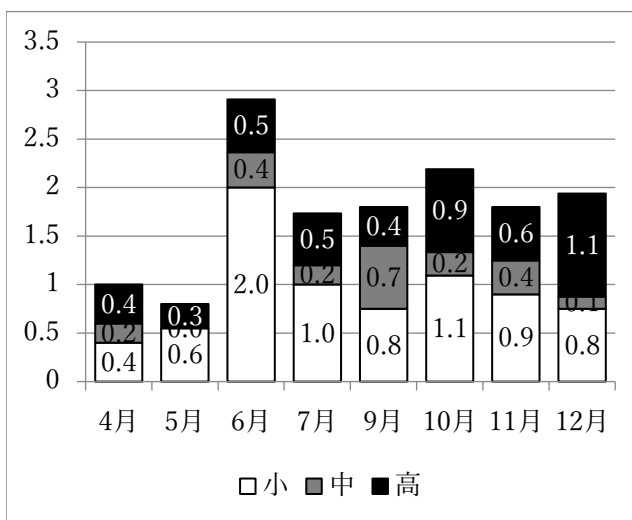


図3 感染症による月別出席停止者数

